



学校だより

錦城の詩

平成24年(2012年)

7月20日(第8号)

明石市立錦城中学校

夏季休業日

校長 荒井 拓

梅雨が明けたとたんの猛暑。熱中症は屋内でも可能性があります。体調には十分ご注意ください。

さて長い長い「夏休み」がやってきました。子どもたちの持つ「夏のしおり」に、将来の夢や志を高く決定するためにも、この夏休みの目標を真剣に立ててほしい。目標を立てるといふ心の在り様が大事である、と書きました。今よりちょっと上に行く自分を発見してほしいと願っています。

「夏休み」というのは、学校文化の中でも、ある種、昭和的な響きを持ち、子どもが子どもとしてその輝きを取り戻せるような郷愁さえも感じてしまうのは私だけでしょうか……。今の中学生は昔の我々と違って大忙し。毎日のようにある部活動。この時とばかり開かれる塾の集中講座。家の手伝い(是非、家族の責務として与えてください)。山のような課題。友達付き合い。親戚付き合い。家族付き合い。などなど。でも、やっぱり「夏休み」。今日もらった通知表を保護者に見せ、じつと小言を我慢すれば、後は「明日から学校の授業がない!」という最大なる解放感! 学生の特権ですなぁ。

さて、錦中生の1学期。実に、様々な行事がありました。各学年に応じた取組を通じ、本当に立派に成長してくれたと思います。この4月に新米校長として、この生徒達と縁があり、心より感謝しています。

成長の証の1つが、昨日行われた1学期最後の生徒会行事。全校球技大会。錦城中ならではの、全校生合同チーム(男子12チーム女子12チーム。全てのチームに1・2・3年生が入るチーム編成)で生徒自身の運営によるものでした。バスケットボール競技でしたが、どのチームも3年生がリーダーシップを発揮し、それぞれ予選リーグ5試合を消化しました。球技大会らしい微笑ましいプレーも飛び出し、わきあいあいと和やかに、しかも熱心に頑張っていました。どこにだしても恥ずかしくない大会運営でした。最後には、男女優勝チームが教師チームへの挑戦権を獲得し、それぞれ真剣勝負。男子チームは先生方と互角に戦い、延長戦をしても決着がつかずドローに。(フル出場の先生方は、後で職員室で、フーフーいってましたぞ) 女子チームは接戦の末、教師チームが1ゴール差で薄氷の勝利。(私も賑やかして参加。きっと明日、いや高齢なので明後日、足が痛くなる) 楽しかったです。



ところで、

「今の日本を見ると、家庭は躑をおろそかにし、学校は学習をおろそかにしている」と揶揄した作家がいましたが、本当にそうでしょうか。もし、そのような部分があるとするならば、お互いに原点に立ち返らなければなりません。子どもは誰もが「きちんと指導してもらいたい」「きちんとしつけてほしい」「きちんと叱ってほしい」と思っているし、それが真の愛情であることもきちんと受け止める力を有しているはずです。「怖いけれど、嫌だけれど、信頼できる。尊敬できる。」大人を求めているはずです。新しい時代背景のもとでは、ひとつの制度や考え方の価値が明快には判断できなくなっているし、メリットやデメリットもあり、こちらが正しいということはすっきりと言うことが難しいと感じるときもありますが、教育の世界においては不変のものが多くあります。子どもにとって、周りの身近な大人が「親しみやすい」「友達みたい」「軽口をたたきやすい」も良いけれど、「何となく怖い」「尊敬できる」「遠く、高い位置にあって近寄りづらい」「その人の前に立つと緊張する」という大人の一人や二人はいてほしいとも思うのですが……。

夏季休業中、我々教職員も研修や研究に努め(結構、研修会や研究会の出張も多いのです)教師としての技量を少しでも高めたいと思っています。ご家庭や地域の方でも、子どもとの程良い距離感を保ちながら、夏休みならではの過ごし方の支援をお願いして、9月一回り成長した子どもたちと再会できることを、今から楽しみにしています。皆様にとって素晴らしい「H24 夏休み」となりますことを祈っております。